

編集後記 マーヴェリックと未来人材

表紙の穏やかな大学の風景とはほど遠い、エキサイティングな学びの場の映画を見ました。「**トップガン マーヴェリック**」です。

エリート・パイロットを養成するアメリカ海軍戦闘機兵器学校、通称「**トップガン**」が舞台。

アウトローのベテランパイロットであるトム・クルーズ（マーヴェリック）が、若くてプライドが高いエリート・パイロット達の教官を務めるというストーリーです。

着任した冒頭、マーヴェリックは戦闘機のマニュアルを不要とばかりにゴミ箱に捨て、エリート・パイロット達にドッグファイトを挑み、マーヴェリックにどこか反抗的だった生徒たちをことごとく仮想撃墜。そこから生徒たちのマーヴェリックに対する目が変わり、チームとして超危険なミッションに立ち向かっていきます。



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



映画を見て、思い出した本があります。「**頭のよさとは何か**」（中野 信子、和田秀樹（著）プレジデント社）です。

本では、第二次世界大戦中のアメリカ空軍では**創造性**を試すテストが重視されたと紹介しています。マニュアル通りに飛ぶ成績優秀なパイロットは、縦横無尽に飛ぶパイロットには太刀打ちできないということから生まれたそうです。たしかに地面すれすれに飛行したり急上昇したりするマーヴェリックは縦横無尽でした。（^^）

経済産業省は今後の人材政策について検討するため「未来人材会議」を設置し、「**未来人材ビジョン**」を公表しています。ご存知の方もいるかと思いますが、そこでのレポートは赤裸々で衝撃的な内容です。（>_<）

ざっくり紹介すると、諸外国と比較して、日本は**従業員エンゲージメントが低く、現在の勤務先で継続して働きたいという人の割合も低い**。でもその一方で、**転職の意向のある人も少なく、独立・起業志向のある人の割合も著しく低い**。しかも、**企業の人材投資額も低ければ、個人として社外学習・自己啓発を行っている人も少ない**。

かくて日本の国際競争力は、この**30年で世界1位から31位に落ち、東証一部上場企業の全社合計時価総額は、GAFA（Google, Amazon, Facebook, Apple）4社の時価総額に抜かれる事態**となってしまっている。（+_+）
もうポロポロ

未来人材ビジョンでは、**働き手の学びへの意欲とキャリア自律意識を高めるための取組み**の必要性等をいくつか具体策として提示しています（旧来の日本型雇用システムからの転換）。

岸田首相は10月12日、自らの経済政策、新しい資本主義で「**リスキリング**の重要性」を訴えていましたが、その「リスキリング」とは、まさに企業の社員などが**新たなスキルを身につけること**です。



さらに未来人材ビジョンは、従来の日本の教育の変革の必要性にも踏み込んでいます。

それは、「**好きなことに夢中になれる教育への転換**」です。

一律・一斉で画一的な知識を詰め込むという今までの教育の考え方を改め、一人ひとりの多様性を前提に、子どもたちが好きなことに繰り返し挑戦したくなる機会を増やしていく教育こそ、これからの子ども達に必要なもの。未来の2050年にはデジタル化・脱炭素化という大きな社会構造の変化によって、「**注意深さ・ミスがないこと**」「**責任感・まじめさ**」よりも、「**問題発見力**」「**的確な予測**」「**革新性**」が人に求められる能力になるといいます。教育、指導にあたる大人たちも従来の価値観を見つめ直す時がきているようです。



未来人材ビジョンとマーヴェリックや創造性を重視するアメリカ空軍の話は、つながっているように思います。高度経済成長期ならルールに乗ってその上を間違いなく走れば先に行けました。でもこれからは不確実性の時代。それぞれが生涯において、学び、模索し続けることが常識となる時代がやって来たということかもしれません。前述の「**頭のよさとは何か**」の本の中で、**頭の悪い人の特徴は「変わりたくない**」とありました。

創造力や行動力がなく、知識ばかりの頭でっかちでは生き残れないのかもしれませんがね。

そういや、映画の中でマーヴェリックの印象的なセリフがありました。「**考えるな、行動しろ!**」

「**トップガン マーヴェリック**」のエンディングのように、思いを共有したベテランと若手が互いを思いやりながら大きな困難を乗り越えていく。そんな未来を迎えたいものです。（^^）

